

第2学年 学級活動 学習指導案

日 時 平成20年10月17日(金) 2校時

児 童 男子4名 女子7名 計11名

指導者 教諭 五安城 晴 美

1 題材名 やさいで げんき

2 題材について

本題材は、「特別活動」の内容 A 学級活動(2)「日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること」の、「心身ともに健康で安全な生活態度の育成、学校給食と望ましい食習慣の形成」を受けて設定したものである。

健康な体を保つには、バランスのとれた食事をするのが大切である。しかし、最近はいろいろな食べ物が豊富に出回っており、子どもたちは好きなものを好きなだけ食べることができる。その結果、偏食や過食などによる生活習慣病が低年齢化しているといわれている。そして、好きなものばかり食べていると便が腸の中に長く滞った状態になることがあり、それが腹痛や体調不良など体に悪い影響を及ぼすことになる。このような状況を改善してくれるのが野菜に多く含まれる食物繊維である。

しかし、食べ物の中でも野菜は、においや味、口当たりが悪い等の理由で子どもたちには嫌われやすく、給食時の様子を見てみると、野菜の残食が他の食べ物に比べて多くみられる。

そこで、ここでは、野菜に含まれる食物繊維の働きを知り、好き嫌いしないで進んで野菜を食べようとする意欲を育てていきたいと考え、本題材を設定した。

3 児童について

児童は生活科「やさいを育てよう」でミニトマトの他に、とうもろこし・パプリカ・きゅうりなど自分だけの野菜「マイ野菜」を育てた。畑作りから始まり、水やり、肥料の追肥、除草など野菜の世話をする活動・収穫して調理する活動を通して野菜への関心が高まっている。

しかし、児童のアンケート調査や給食の様子からは、食べ物の中で野菜を嫌う傾向がみられる。主な嫌いな野菜は、なす、にんじん、ほうれん草、ピーマンなどである。また、好き嫌いしないで食べようという気持ちは育ってきているが、給食時の残食はまだ見られ、そのほとんどが野菜である。理由は量が多いということよりも、苦手な野菜が食べられないということあげている。学校では頑張っけて食べても家庭ではあまり食べないという児童も少なくなかった。

また、このように野菜を積極的に食事に取り入れていないためか、排便に関わるトラブルも起こっている。授業中に腹痛を訴え、トイレに行っけて排便すると「なおった。」と言っけて教室に戻るなど排便が習慣化されていない児童も少なくない。

4 指導について

指導にあたっては、事前に好き嫌いについてのアンケートを行い、児童の食生活の実態を把握して学習を進める。

本時は、野菜に含まれる食物繊維の働きを知り、野菜を食べるよさをとらえさせたい。そして、健康のためにも好き嫌いしないで野菜を食べようという意欲を持てるようにしたい。

導入の段階では、排便に関わるトラブルから起こった症状と、その人が食べた1日の食事から野菜についての興味関心を高め、課題につなげていく。

展開では、食物繊維の多い野菜を棒でたたき、食物繊維を目にしたり、教師の説明を聞いたりすることで、食物繊維を多く含む野菜が体の中を掃除することをイメージさせたい。そして、野菜と排便に関係があることを知らせ、好き嫌いせずに野菜を食べることで健康な体で元気に

生活できることを捉えさせたい。

まとめの段階では、学習で感じたことや分かったことを短い文章に表し、発表することで今後の実践への意欲付けを図っていく。自分の食生活を振り返りながら、これからの生活につなげていくことができるようにしたい。

事後は、学習の様子を学級通信や児童のワークシートによって家庭に知らせることにより、家庭との連携を図っていく。また、給食の時間における声かけや、野菜を残さず食べることができたら褒め合うなどして日常活動を継続させていきたい。

5 題材の目標

野菜に含まれる食物繊維の働きと、野菜と排便の関係を知り、健康な体で元気に生活するために好き嫌いしないで野菜を食べようという意欲をもつことができる。

6 食育とのかかわり

- <育みたい心> 自分自身の健康を守り、命を大切にしようとする心
- <育みたい実践力> 望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力
- <育みたい知識・理解> 食事の重要性、食事の喜び、楽しさの理解

7 指導計画と評価規準

時間	主 な 活 動	教 師 の 支 援	評 価 規 準
事前	好き嫌いについてのアンケートを行う。	・給食時間など児童の様子を観察する。	・自分の食事について振り返っている。
本時	野菜に含まれる食物繊維の働き、野菜と排便・健康との関わりを知る。	・野菜をたたく活動を通して、野菜に含まれる食物繊維に気づかせ、体の中を掃除するイメージをもたせる。 ・野菜の食物繊維と排便・健康との関わりを知らせる。	・食物繊維の働きや、野菜と排便の関係を知り、好き嫌いしないで野菜を食べようとしている。
事後	家の人にワークシートを見せ、気づいたことや頑張ることを伝える。	・学級通信を使って、家庭への啓発を行う。 ・「やさいでげん気」カードを用いて給食時間に好き嫌いしないで野菜を食べることについて確かめる。 ・カードに「出来たよシール」を貼ることで継続への意欲を持たせる。 ・実践しようと努力している児童を賞賛する。	・好き嫌いしないで野菜を食べている。

8 本時の指導

(1) 指導目標

野菜に含まれる食物繊維の働きと、野菜と排便の関係を知り、健康な体で元気に生活するために好き嫌いしないで野菜を食べようという意欲をもつことができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	教師の支援(・)と評価(☆)	教材・資料等
導入 5分	<p>1 排便に関わるトラブルから引き起こされた症状と、1日の食事を見る。</p> <p>2 症状のある人がとった1日の食事を見る。</p> <p>3 本時の課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">やさいパワーのひみつをみつけよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「お腹がはって苦しい」「ぶつぶつができる」「イライラ等気分不良」等の症状の絵から、その原因を自由に想像させる。 ・献立に野菜が含まれていないことに気づかせ、野菜についての興味関心を持たせる。 	<p>排便に関わる不快な症状の絵</p> <p>1日の献立</p>
展開 30分	<p>4 野菜のよさを考える。</p> <p>(1)野菜を調べる。</p> <p>(2)野菜の食物繊維と、食物繊維の働きについて知る。</p> <p>5 食物繊維を多く含む野菜を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜をたたき、その様子を見たり触ったりしながら調べ、気づいたことを話させる。 ・実験する中での児童のつぶやきをとらせ、野菜のかずに着目させる。 ・野菜に含まれる食物繊維とその働きについて説明する。 ・食べ物が消化されると便になることを確認する。 ・食物繊維が腹の中を掃除して便を出しやすくしてくれることを捉えさせる。 ・健康に着目させ、食物繊維の多い野菜をとることの大切さに気づかせる。 ☆食物繊維の働きを知り、野菜を食べることの大切さが分かったか。 ・身近にある食物繊維を多く含む野菜を紹介する。 	<p>野菜棒</p> <p>図</p> <p>模型</p> <p>イラスト</p>
終末 10分	<p>6 学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の感想を書き、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返らせ、分かったことやこれから頑張ることについて書くことが出来るようにする。 ☆健康で元気に生活するためにも、好き嫌いしないで野菜を食べようという意欲をもつことができたか。 	ワークシート

(3)板書計画

